

社会政策学会 Newsletter

◇学会本部 立教大学経済学部 菅沼隆研究室
URL : <https://jasps.org> TEL : 03-3985-4529 E-mail : suganuma@rikkyo.ac.jp
◇編集・発行 菅沼隆 (代表幹事) 吉村臨兵・森詩恵 (Newsletter 担当幹事) 中尾友紀 (事務局長)
◇事務センター 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2丁目 39-2 大住ビル 401
㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 社会政策学会事務センター
TEL : 03-5981-9824 FAX : 03-5981-9852 E-mail : g048jasps-support@ml.gakkai.ne.jp

【目次】

1. 第 150 回 (2025 年度春季) 大会自由論題報告、テーマ別分科会報告の募集
2. 社会政策学会賞候補作の推薦のお願い
3. 第 148 回大会 (2024 年度春季) 大会報告と会計報告
4. 2024-2026 年期幹事会報告
5. 専門部会 2023 年度活動報告
6. 承認された新入会員

1. 第 150 回 (2025 年度春季) 大会自由論題報告、テーマ別分科会報告の募集

社会政策学会第 150 回大会は、2025 年 5 月 17 日 (土)、18 日 (日) に東京都立大学で対面開催される予定です。今号のニューズレターでは、募集締め切り日時に限って、ご案内いたします。

報告申し込みの詳しい情報は、次号のニューズレターおよび、学会ホームページ、学会メーリングリストを通じて、12 月中旬から 1 月上旬にかけて、会員の皆様にご案内申し上げます。

◆自由論題申し込み期限：2025 年 1 月 24 日 (金) 17 時

自由論題の報告申し込みに必要なのは、例年同様に、次の事項です。

- ・報告タイトル (日本語、英語)
- ・所属機関とポジション (日本語、英語)
- ・氏名 (ふりがな、英語)
- ・連絡先 (住所、電話、Fax、E-mail アドレス)

・400 字程度の邦文報告要旨と英文アブストラクト

・専門分野別コード (1. 労使関係・労働経済、2. 社会保障・社会福祉、3. 労働史・労働運動史、4. ジェンダー・女性、5 生活・家族、6. その他)

大会若手研究者優秀賞対象者の確認等の必要事項です。

なお、今回から、Google Form に必要事項を記入いただく方式を導入する予定です。

また、報告者として採択された方々には、事前にフルペーパーを提出していただきます。フルペーパーの提出期限は、2025 年 4 月 18 日 (金) ~ 25 日 (金) を予定しています。

◆テーマ別分科会申し込み期限：2025 年 1 月 24 日 (金) 17 時

テーマ別分科会の申し込みに必要なのは、例年同様に、次の事項です。

- ・分科会タイトル (日本語、英語)
- ・分科会設定の趣旨 (日本語 400 字程度、非会員を報告者に招聘するときは、招聘しなければならない理由を記入) と英文アブストラクト
- ・座長・コーディネーターの氏名 (ふりがな、英語)、所属機関とポジション (日本語、英語)、連絡先 (住所、電話、Fax、E-mail アドレス)
- ・報告者の氏名 (ふりがな、英語)、所属機関とポジション (日本語、英語)、E-mail アドレス
- ・各報告の邦文報告要旨 (400 字程度) と英文アブストラクト

・予定討論者の氏名（ふりがな、英語）、所属機関とポジション（日本語、英語）

大会若手研究者優秀賞対象者の確認等の必要事項です。

なお、テーマ別分科会の申し込みについても、Google Form に必要事項を記入いただく方式の導入を検討しております。

また、テーマ別分科会として採択された方々には、事前にフルペーパーを提出していただきます。フルペーパーの提出期限は、4月18日（金）～25日（金）を予定しています。

皆様の申し込みをお待ちしております。

（春季大会企画委員長 禿あや美）

2. 社会政策学会賞候補作の推薦のお願い

今年度の社会政策学会賞選考委員会が、10月31日（木）にオンライン会議を通して発足いたしました。選考委員会では、2025年2月より第31回社会政策学会賞の選考を開始いたします。

つきましては、学会員みなさまに候補作の推薦をお願いいたします。自薦・他薦は問いません。外国語著書も選考対象に含みます。候補作の条件は、表彰規定第3条および第4条にもとづき、本学会に3年以上継続して在籍している会員によって、2024年1月1日から同年12月末日までの間に公刊された単行書です。ただし、教科書、一般向けの概説書等は、原則として除きます。

学会賞選考委員会では、書籍データベース等を活用して、会員みなさまの日本語の著書リストを作成して選考の際に利用していますが、会員の著書すべてを網羅できるかどうか、不確実です。また、外国語の著書については、原則として推薦していただいたもののみを選考の対象としています。そこで、会員みなさまが単行書を2024年中に刊行された場合は、ぜひとも、候補作の「自薦」のかたちでお知らせいただくようお願いいたします。また、会員が出版された書籍について学会賞にふさわしいとお考えの作品があれば、その書籍の推薦をお願いいたします。

これらの自薦・他薦の情報は、次の通りメールでお寄

せください。なお、他薦の場合、「本学会に3年以上継続して在籍している会員」であるかどうかを確認していただく必要はありません。こちらで確認いたします。

・締切：2025年1月31日（金）必着

・メールアドレス：juni-mai@sophia.ac.jp

・メールには以下の事項を明記して下さい。

①メールの件名の冒頭に【学会賞候補出版情報】と記入し、著者の会員のお名前を件名のなかに書き込んでください。

メール件名の様式：【2024年学会賞候補出版情報】

〇〇〇〇（著者の会員名）

②候補作の著者名、書名、出版日、出版社

③会員の著作を推薦される方は、推薦者のお名前、ご所属、連絡先（メールアドレス）も記載してください。できれば、推薦理由もお書きください（任意）。

メール受信後数日以内に受領確認の返信をお送りします。1週間経っても返信がない場合は、念のため、再度のご連絡をお願いいたします。

これらの著作リストと推薦作品は、秋季大会の書評分科会で取りあげる図書の選定にも活用させていただきます。

学会賞の候補作品について、自薦・他薦にかかわらず、会員みなさまからの積極的な情報の提供をよろしくお願い申し上げます。

（社会政策学会賞選考委員長 今井順）

3. 第148回大会（2024年度春季）大会報告と会計報告

（1）第148回（2024年度春季）大会報告

社会政策学会第148回大会は、5月18日（土）、19日（日）の両日、公孫樹の新緑に囲まれた慶應義塾大学三田キャンパス（西校舎・第一校舎・南校舎）にて、全面的な対面方式（ハイブリッド方式は無し）により開催されました。初日は夏日となり、参加者の熱気にも包まれ、共通論題報告会場に今年初の冷房を入れることになりました。二日目は平年並みの気温に下がり、曇天ながら大きく天候が崩れることはありませんでした。

本塾大学では教室予約が可能となるのは開催年の1

月下旬であり、それまで開催日を確定できないとの事情がございます。禹宗杭（前）代表幹事、熊沢透（前）事務局長や伊藤大一（前）春季大会企画委員長をはじめ、幹事の皆さまには予めそれをご理解の上、手厚い特別のサポートを頂戴しました。また前回開催校（立命館大学）の櫻井純理会員と鎮目真人会員からは、大会の具体的運営に関し、マニュアル等の詳細な情報提供以外にも懇切なアドバイスを相談の都度すぐ賜りました。加えて塾員の大津唯会員、四方理人会員、田中聡一郎会員、渡辺久里子会員には大会両日の委託会社の大会開催支援業務で足りなかった部分を、そして共催した本塾大学経済学部附属経済研究所には教室予約・幹事会開催準備・教室使用料に関し、社中協力いただきました。

すべての関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

実行委員会は、本塾大学の荒木宏子会員、権丈善一会員、駒村康平会員と私（実行委員長）の4名で担当し、当日の大会運営スタッフとして本塾学部生（ゼミ生）17名が関わりました。

事前登録の大会参加者は284名、当日の大会参加者は59名、計343名でした。その中、非会員の参加者は56名でした。会員種別での詳細は本レター別項記載の会計報告参考資料をご参照ください。また懇親会参加者は129名でした。なお事務局で把握する限り、事前登録の大会参加者の中、16名が大会ご欠席、その中、4名が懇親会ご欠席でした。

大会は学会ホームページにある通り、共通論題「『若

者』問題の軌跡——その過去、現在、未来」以外に6つのテーマ別分科会、11分野の自由論題、そして1つの教育セッションで構成されました。本大会ではPDF版プログラムも作成・掲載しました。

懇親会（南校舎4階ザ・カフェテリア）では開会挨拶を禹（前）代表幹事と菅沼隆（新）代表幹事に、来賓挨拶を本塾大学の駒形哲哉経済学部長に、乾杯スピーチを権丈会員に、学会奨励賞受賞者スピーチを古波藏契会員に、大会若手研究者優秀賞受賞者スピーチを瀬戸健太郎会員に、次回開催校挨拶を石井まこと会員に頂戴いたしました。司会は駒村会員が担当しました。

会計については、前回大会に倣い、大会参加費等を含め、本大会に関わるすべての収支が追えるよう本レター別項にてご報告差し上げています。大会開催費として実行委員会が学会より拝受した予算の残金(193,311円)を含め、すべて学会会計にお戻しました。

大会当日は諸般の件に取り紛れ、実行委員長として、いろいろと至らぬ点多かったかと思います。どうかご寛恕のほどお願い申し上げます。

あらためまして、関係者皆さまの惜しみないご助力により、つつがなく第148回大会を終えられ、無事、次回開催校に引き継げたこと、実行委員会を代表し、重ねて心より御礼申し上げます。

（第148回大会実行委員長 山田篤裕）

(2) 第148回（2024年度春季）大会会計報告

収 入	(単位：円)
大会開催費	1,500,000
参加費（事前納入）	648,500
参加費（当日参加）	165,000
書店の広告・出展料	115,000
春季企画委員会予算からの繰入れ（※1）	6,700
若手研究者支援予算からの繰入れ（※2）	33,000
大会弁当代	114,000
大会懇親会費	665,500
収入合計	3,247,700

※1 共通論題招待者懇親会費・弁当代（1名）に充当。

※2 若手研究者懇親会招待による懇親会費（6名）に充当。

支 出	(単位：円)
プログラム等印刷・送付・看板作成（※3）	433,719
ガリレオ委託費（大会受付業務）	411,123
大会運営スタッフ人件費	357,647
休憩室飲食費	52,629
文具・備品費	6,186
コピー代	24,380
振込手数料	495
郵送費（※4）	3,110
大会弁当代	115,200
大会懇親会費	720,200
学会会計への繰入れ	1,123,011
支出合計	3,247,700

※3 PDF版プログラム作成費用含む。

※4 プログラム送付分を除く。

(参考)

登録種別	区分	人数
事前：284 名	会員（一般）	203
	会員（院生等）	36
	会員（若手研究者）	6
	永年会員	2
	招待者（非会員）	2
	非会員	35
当日：59 名	会員（一般）	26
	会員（院生等）	12
	非会員	21
計		343

4. 2024-2026 年幹事会報告

第 2 回次期幹事会準備会議事録

日時：4 月 27 日（土）16～18 時

場所：オンライン

出席：菅沼隆、阿部彩、居神浩、小澤裕香、鬼丸朋子、
垣田裕介、角能、金井郁、禿あや美、金成垣、熊
沢透、駒川智子、櫻井純理、志賀信夫、杉田菜穂、
田中聡子、藤原千沙、水野有香、百瀬優、森詩恵、
山崎憲、山根純佳、吉村臨兵、米澤旦、中尾友紀
欠席：榎一江、大津唯、松本伊智朗

議題：

(1) 幹事自己紹介

前期幹事会の冒頭で禹さんが呼びかけたお互いに「さん」で呼び合うことについて、代表幹事から今期幹事会でも踏襲することが確認された。

(2) 各種委員会の担当引継ぎ状況と次期課題の確認

代表幹事から第 148 回（2024 年度春季）大会までに引き継ぎを完了して欲しい旨、確認された。

①学会誌編集委員会

査読を依頼するのにメールアドレスがわからず困っている。Solti で検索できるようにならないか。

→次の総会で原則全会員のメールアドレスを会員に公開することを報告した上で公開とする。ただし、非公開を望む会員は申し出て、非公開とする。以上を確認した。

②春季企画委員会

幹事会委嘱の委員は、第 1 回幹事会で候補を挙げて承認する。

③秋季企画委員会

幹事会委嘱の委員について。

→任期は 2 年で、再任は妨げないが改選が必要。企画委員会規程に人数は明記されていないため、必要であれば後から追加で委嘱できる。

④国際交流委員会

コロナ禍で停滞した交流を再スタートさせる。欧米、東アジアに加えて東南アジアとの交流を深めたい。

→予算を 130 万円から 140 万円程度まで増額させる予定。十分な増額ではないが、予備費などもある。

⑤広報委員会

ガリレオになって研究会情報なども一斉メールできるようになったが、頻繁になると負担は重くなる。

→場合によっては制限をかけても良いのではないか。

⑥若手研究者支援担当

重点事業から経常事業にし、予算を確保する。

⑦地方部会担当

地方部会の合同開催や大会のテーマ別分科会で地方部会枠を設けることなどを検討したい。

→地方部会は秋季企画委員の母体で学会にとって重要だが、課題がある。社会政策関連学会協議会参加学会との地方での共同を模索できないか。

⑧専門部会担当

春季大会後に専門部会世話人会を開催する。

⑨日本経済学会連合

5 月 30 日に第 1 回の評議員会があり、出席する。

⑩社会政策関連学会協議会

7 月に総会が開催されるため、それまでに引き継ぎを行う。

(3) 次期活動方針について

代表幹事による素案から、以下の 2 か所を修正して承認した。

(2) 編集の負担を軽減するために

→削除

(3) 東南アジアとの交流を検討する。

→東南アジアとの交流を進める。

(4) 予算案について

原案通り承認した。

(5) その他

①「個人情報保全管理費」の徴収について

ガリレオから新たに「個人情報保全管理費」を徴収したいと連絡があり、新旧の事務局で対応した。禹さんの交渉により 2024 年度の徴収はなくなった。今後についてはガリレオと交渉を進める。

②今後の予定

第 1 回幹事会は、5 月 18 日(土) 昼に対面で開催する。

第 1 回幹事会議事録

日時：5 月 18 日(土) 11 時 30 分～12 時

場所：慶應義塾大学三田キャンパス第一校舎 101 教室

出席：菅沼隆、居神浩、榎一江、大津唯、小澤裕香、鬼丸朋子、垣田裕介、角能、金井郁、金成垣、熊沢透、駒川智子、櫻井純理、田中聡子、藤原千沙、水野有香、百瀬優、山崎憲、山根純佳、吉村臨兵、米澤旦、中尾友紀

欠席：阿部彩、禿あや美、志賀信夫、杉田菜穂、松本伊智朗、森詩恵

議題：

(1) 編集委員会委員の委嘱

前期より 4 名増員し、17 名の委員を承認した。

(2) 国際交流委員会委員の委嘱

副委員長としてアメリカ及びヨーロッパの担当を置いている。また、前期に続いて中国及び韓国の担当を置いた。これに加えて今期は交流を東南アジアに広げるため、新たに東南アジア地域の担当を置きたい。

→東南アジア地域の担当を含む 4 名の委員を承認した。

(3) 各種委員会報告

①春季企画委員会

2025 年度春季大会から共通論題を Zoom 配信することが決まった。ルールの詳細はこれから検討する。

②広報委員会

委員を 2 名委嘱したいが、まだ 1 名が確定していないため、確定後、メール審議で承認をお願いしたい。今季は HP を見やすくしたい。

③地方部会担当

2025 年度春季大会から分科会に地方部会枠を設ける。

(4) その他

①会則規程の整理について

会則規程のテキスト原稿がなく、改正の度に HP 上のものを打ち直しているため、間違いが起きかねない。テキスト原稿を持っている人は教えて欲しい。

②秋季企画委員会

委員を 1、2 名増員したい。

→メール審議とする。

③今後の予定

第 2 回幹事会は、7 月 12 日(金) 19 時 30 分からオンラインで開催する。

第 2 回幹事会議事録

日時：7 月 12 日(金) 19 時 30 分～21 時 30 分

場所：オンライン

出席：菅沼隆、阿部彩、居神浩、大津唯、小澤裕香、鬼丸朋子、垣田裕介、角能、金井郁、禿あや美、金成垣、熊沢透、駒川智子、田中聡子、志賀信夫、杉田菜穂、藤原千沙、水野有香、百瀬優、山崎憲、吉村臨兵、米澤旦、中尾友紀

欠席：榎一江、櫻井純理、松本伊智朗、森詩恵、山根純佳

議題：

(1) 事務局からの報告と協議

①新入会員及び割引会員の適用・変更の承認

13 名の新入会員、2 名の割引会員を承認した。なお、「推薦者なし」の推薦者は、代表幹事と事務局長とした。退会者はなかった。

②会員名簿管理関係

メールアドレスの公開：6 月 1 日から会員に対してメールアドレスが公開され、Solti で検索可能となった。その際、名簿のワールドプランニングからガリレオ Solti へ

の移行過程でいくつかの重要項目がコピーされていなかったミスが判明したため修正した。

一斉メールの不備：5月の総会で、割引会員から学会からの一斉メールが届いていないとの申し出があったためガリレオに問い合わせたところ、割引会員に一斉メールが届かない設定になっていたことが判明した。現在は届くようになっている。

顧問について：75歳を超えた時点で機械的に外すようにしたい。

永年会員について：従来、永年会員となる年度の4月に意志確認をしていたが、当該年度の会費が支払われるなど煩雑となっている。そのため、今年度から秋季大会後に翌年度に永年会員になる会員に意志確認を行いたい。

会員名簿の管理について：地方部会担当から地方部会ごとの会員名簿が欲しいとの要望があり、検討することとなった。

③ガリレオ「個人情報保全管理費」について

来年度に向けて値段交渉をする。非アクティブ会員は、増加するため費用がかさむことが見込まれるため、退会後3年ないし5年で名簿から削除することなどを今後検討する。

④アジア部会での部会補助金の支出

台湾からゲストを招致した件で、招致決定時は非会員であったが、その後に会員となった。会員には部会活動費を支出できないとの規程があるが、招致決定時に非会員として補助金支出を決定していた。

→支出を承認する。

⑤EASP/FISS 補助金について

EASP/FISS にオーストラリアからサンダース先生を招致し、その費用を本学会が支出する予定であったが、諸事情で来日できなかった。とはいえ、EPSP/FISSでは、本学会を紹介させて頂いた。

⑥2025年第150回（東京都立大学）大会開催日の決定

第150回大会は、東京都立大学で5月17日（土）、18日（日）に開催することを決定した。

⑦2025年以降の開催校について

2026年春季大会を東京大学にお引き受け頂いた。こ

れにより、2025年度春季大会は東京都立大学、秋季大会は関西学院大学、2026年度春季大会は東京大学まで決定した。

⑧その他

メール審議の発議は代表幹事が行うことを確認した。

(2) 各委員会・担当報告

①秋季企画委員会

自由論題・テーマ別分科会の進捗：応募は、自由論題41件、テーマ別9件。

自由論題は前年の2倍、前々年の3倍。会費未納4件、概要が著しく過少のもの1件あり。会費未納・過少のものは条件付き採択とし、納入・修正を促す。プログラムの印刷入構までに納入・修正されなければ報告不可とする。

テーマ別は、1件で報告者3人全員が非会員でルールに従っていない。少なくとも1名の会員が報告者となること、非会員過半数でテーマ別を開催する理由書を提出することの2点の条件を提示し、応じて頂いた。分科会の趣旨は賛同頂けるものである。今後は、会員が半数を占めること等について幹事会申し合わせを作成し、会員に提示したい。

書評分科会の進捗：福祉・労働・生活で各3点、計9点を決定。

共通論題の進捗：6月の打ち合わせで、労働力不足に関することで開催することを決定。座長は熊沢さん。昨年度、情報保障に不具合があったため、トラブルが起きないように最小人数での下見を予定している。

企画委員の幹事会委嘱について：自由論題の座長が不足する可能性があるため、2名増員したい。

→2名を承認した。

自由論題の座長の依頼：自由論題で座長が不足するため、企画委員以外に座長を依頼することを承認した。

②春季企画委員会

この幹事会で春季大会の企画を審議する予定であったが困難となったため、企画案をメール審議とし、7月末までに幹事会で最終案を承認することとなった。その間に企画委員長、代表幹事、幹事でオンラインによる意見交換の場を設ける。

③学会誌編集委員会

編集業務の進捗：1号2号を合冊して紙媒体で刊行することとなっているが、16巻は1号のみで1冊、2号から4号で1冊として発行する。

査読細則の改訂：B1評価が査読指針と審査細則で異なるため、査読指針に合わせて改訂する。

→承認した。この後、即時施行する。

ネイティブチェックのあり方について：現行では初回投稿時に証明書の提出を求めているが、それを廃止し、掲載決定後の1回としたい。

→承認した。

④国際交流委員会

機関交流事業として欧州との交流で予定されていたEASPへの協力は取り消したが、米国との交流でLERAには4名が参加した。海外研究者招聘助成は、上村会員・埋橋会員による2つの分科会企画で2名（航空券運賃のみ支給）を予定している。7月中旬に会員に向けて国際交流助成事業の案内を行う予定である。国際交流事業は、韓国は2025年春、中国は2024年秋を予定している。その他、国際学会報告助成制度は年に2回募集しているが、学会の開催時期により助成が難しいケースが生じているため、検討中である。

⑤広報委員会

HPのリニューアル：2025年度予算でのHPリニューアルを承認した。予算規模は今後検討する。

一斉メール・ブログの受付について：Formsで行い、配信内容は、委員会・部会・研究会・公募情報・調査に限りたい。

→承認した。

⑥若手研究者支援担当

学会誌に掲載する受賞論文の取扱いについて：事前に編集委員会委員長と副委員長で協議したところ、現状では学会誌の査読論文として扱うのは難しい、査読付き論文とするのであれば、査読・修正プロセスを変更する必要があるとの意見であった。これに対して、細則を削除して実態にそえる方法もあるが、投稿論文とは異なる別の形の「レフェリー付」論文と位置づけることもできるのではないか、との発言があった。

→次回幹事会で再度議論する。

「研究者育成フォーラム」と「教育セッション」の役割分担について：これまでは春季企画委員と育成フォーラム担当を兼任する人がいたため、フォーラムとセッションを効率的に企画できていた。兼任する人を常に置いてはどうか。

→春季企画委員会のメンバー決定に時間がかかっているため、今回は、育成フォーラム担当が春季大会の教育セッションを取りまとめる。

若手研究者旅費補助規程について：旅行パック料金の内訳がわかる書類の提出を求めるよう規程に明記したい。

→次回幹事会までに規程案を作成する。

⑦地方部会担当

定期的な活動が行えていない原因は、部会ごとに会員数に偏りがあるからではないか。これを踏まえた対応策について、関係する各種委員会（春季・秋季企画委員会、学会誌編集委員会、広報委員会等）から次回幹事会までにメールで意見を頂くことにした。

学会HP「地方部会」サイトでは、過去の部会開催に関する記録が欠けている。

→原稿を作成し、追加で掲載する。

⑧専門部会担当

専門部会世話人会を開催し、現状報告をした。旅費規程等について意見が出た。

→ガイドラインの幹事会案は確定したが、世話人会の意見を踏まえて修正は可能である。意見を取りまとめて代表幹事に提出する。

⑨日本経済学会連合

応募可能な補助金について国際交流委員会に連絡した。

⑩その他

第3回幹事会は、9月20日（金）19時からオンラインで開催する。

規程改正があるため、第149回大会で臨時総会を開催する。

若手支援担当は若手支援委員会としたいため、委員会規程案を作成する。（中尾友紀）

5. 専門部会 2023 年度活動報告

◆アジア部会

2023 年度は、大会におけるテーマ別分科会の開催と社会保障国際論壇への協力を中心に活動を行ってきた。

・テーマ別分科会

2023 年度春季（第 146 回）大会において、テーマ別分科会「アジア社会政策研究の新地平をひらく」を企画した。同分科会では、韓国、中国、タイの事例に関する報告をもとに、アジアにおける社会政策の展開とその理論的解釈について議論を行った。

座長：李蓮花（東京経済大学）

コーディネーター：金成垣（東京大学）

報告 1：金成垣（東京大学）「韓国福祉国家はどこへ向かっていくのか」

報告 2：朱珉（千葉商科大学）「『福祉中国』——多層的社会保障制度体系の構築」

報告 3：大泉啓一郎（亜細亜大学）「『福祉中国』——タイに見る東南アジア社会保障制度の課題」

討論者 1：埋橋孝文（同志社大学・名誉教授）

討論者 2：澤田ゆかり（東京外国語大学）

・テーマ別分科会

2023 年度秋季（第 147 回）大会において、国際交流分科会との共催で、テーマ別分科会「アジアの少子化と少子化対策」を企画した。この分科会では、日中韓の専門家から各国の現状について紹介をしてもらい討論を行った。

座長：松江暁子（国際医療福祉大学）

コーディネーター：朱珉（千葉商科大学）

報告 1：溝口由己（新潟大学）「日本と東アジアの少子化要因」

報告 2：金英美（大統領直属低出産高齢社会委員会）「韓国における少子化対策の方向性と未来戦略」

報告 3：張継元（華東師範大学）「中国における少子化の特徴と対策」

討論者：小島克久（国立社会保障・人口問題研究所）

・社会保障国際論壇への協力

2010 年から本部会が日本側の窓口となって毎年行っている「社会保障国際論壇」の第 17 回大会が 2023 年 8 月 25～27 日に中国西安で開催された。この大会に関して、本部会では参加者（報告者、討論者、司会者、通訳者）を募集・選定し、日本から 40 名程度が参加した。

本大会の企画テーマは「国家の近代化と社会保障の高質発展」とし、日中韓 3 国でそれぞれ「日本の社会保障が直面する課題——人口減少社会から考える」（小島克久）、「不安定労働の多様性——液化労働と韓国の福祉国家における労働者保護への失敗」（李承潤）、「現代化の過程における社会保障モデルの転換」（席恒）というタイトルで基調講演を行った。その他、年金、医療、介護、公的扶助、社会サービス、社会保障一般などの 15 の分科会で 50 の研究報告と討論が行われた。日本からの 40 名を含め、韓国（40 名程度）と中国（90 名程度）から多くの参加者が参加し、全体大会は成功裏に行われた。

なお、2024 年 9 月には中国広州、2025 年 8 月には韓国ソウルで大会が開催されることが決まっている。

（金成垣）

◆ジェンダー部会

ジェンダー部会の 2023 年度の活動をご報告いたします。

・テーマ別分科会

2023 年 6 月 4 日（日）に立教大学で開催された 146 回春季大会（2 日目）において、テーマ別分科会を開催しました。当日は悪天候の影響をうけ、急遽 Zoom も併用したものとなりましたが、対面でも Zoom でも参加者多数で、活発な議論がなされました。

内容は下記のとおりです。

「ジェンダー部会管理職とジェンダー」

座長・コーディネーター：金井郁（埼玉大学）

報告 1：「ドイツ企業における女性管理職の拡大」田中洋子（筑波大学）

報告 2：「生命保険営業現場における管理職の役割——組織構造とジェンダーの違いに着目して」金井郁（埼玉大学）

報告 3：「地方自治体職場における女性管理職登用格

差の実態と先進自治体の取組」 清山玲（茨城大学）

討論者：大槻奈巳（聖心女子大学）

・共催シンポジウム

また、ジェンダー部会共催のシンポジウムを2024年3月2日（土）にお茶の水女子大学で開催しました。内容は下記のとおりです。

テーマ：「『キャリアに活かす雇用関係論』を読んで使う——ジェンダー視点を貫く授業」

報告1：「学生を無防備なまま社会に出さないために」 駒川智子／編者（北海道大学）

報告2：「キャリア教育の「くびき」から身をほどく」 筒井美紀／第1章 大卒就職・大卒採用（法政大学）

報告3：「誰もが働いて生きていける賃金を」 禿あや美／第3章 賃金（跡見学園大学）

報告4：「女性の昇進意欲が低いのはなぜか」 大槻奈巳／第4章 昇進（聖心女子大学）

報告5：「働く人の尊厳が保たれる職場を」 申琪榮／第7章 ハラスメント（お茶の水女子大学）

報告6：「何度でもやり直しができる社会へ」 林亜美／第9章 離職・転職（神田外語大学）

報告7：「目指すべきは働く人のウェルビーイング」 田瀬和夫・真崎宏美／第13章 いろいろな人と働く（SDGパートナーズ）です。

同書の書評とコメント報告を朴峻喜（立教大学）、佐野嘉秀（法政大学）、司会を金井郁（埼玉大学）が担当しました。

会場には多くの参加者があり、また対面・オンライン併用で合計100名の参加となり、活発な議論が行われました。

・共催シンポジウム

さらに、社会政策学会非定型労働部会、旬報社と共催で、シンポジウムを2024年3月16日（土）に立教大学で開催しました。内容は下記のとおりです。

田中洋子編著『エッセンシャルワーカー——社会に不可欠な仕事なのに、なぜ安く使われるのか』出版記念シンポジウム

報告1：「スーパー、外食チェーン、看護師」 田中洋子（筑波大学）

報告2：「自治体相談窓口、教員」 上林陽治（立教大学）

報告3：「トラックドライバー」 首藤若菜（立教大学）

報告4：「建築一人親方」 柴田徹平（岩手県立大学）

報告5：「アニメーター」 松永伸太郎（長野大学）・永田大輔（明星大学）です。

同書の書評とコメント報告を、禿あや美（跡見学園女子大学）、今野晴貴（POSSE 代表）、司会を金井郁（埼玉大学）が担当しました。対面での参加者はそれほど多くはなかったのですが、Zoomでも配信されたため、結果多くの参加があり、活発な議論がなされました。

（禿あや美）

◆社会的排除／包摂部会

部会より活動なしとの報告がありました。

◆社会保障部会

社会保障部会では、2023年度は大会での報告を見送りました。それに伴い例会を実施することもできませんでした。幹事会の専門部会活性化担当の皆様のご尽力を得て、部会メンバーの増員に力を入れています。

（中澤秀一）

◆総合福祉部会

下記のとおり例会を開催しました。

日時：2024年3月9日（土）13時30分～17時45分

会場：京都府立大学合同講義棟・第5講義室（オンライン対応あり）

テーマ：「福祉行財政と政策」

報告1：「福祉政策の今後の方向性——相談支援業務の主流化、アクターの主体性と分権の進化、政策企画運営の多元化を中心に」 畑本裕介（同志社大学）

報告2：「地域支援事業の位置づけとその課題—財源とサービスから考える」 森詩恵（大阪経済大学）

報告3：「公的医療保険と財政——国保の都道府県化と、拠出金を巡る動向」 瀬野陸見（阪南大学）

討論者1：森瑞季（大阪公立大学）

討論者2：田中弘美（大阪公立大学）

座長：上掛利博（京都府立大学名誉教授）

対面で20名、オンラインで約20名、合計で40名ほ

どの参加があり、活発な質疑応答・議論が交わされました。
(瀬野陸見)

◆非定型労働部会

第146回大会で、「学生アルバイトの実態と問題点——基幹化・シフト制・ブラックバイト」のテーマ別分科会を開催した。40名以上の参加があり、活発な議論が交わされた。また、第147回大会で、「障害者の雇用就労支援システムの現状」のテーマ別分科会を開催した。約30名の参加があった。さらに、例会を対面方式で開催した。9名の参加があった。テーマ別分科会や例会以外にも、田中洋子編著(2023)『エッセンシャルワーカー——社会に不可欠な仕事なのに、なぜ安く使われるのか』旬報社の出版記念シンポジウムを、ジェンダー部会と旬報社の共同で開催した。

・テーマ別分科会

「学生アルバイトの実態と問題点——基幹化・シフト制・ブラックバイト」

日時：2023年6月4日(日) 9時30分～11時30分

会場：立教大学池袋キャンパス5号館5223教室

座長・コーディネーター：高野剛(立命館大学)

討論者：禿あや美(跡見学園女子大学)

報告1：「日本における学生の労働問題——実態と分析枠組みの検討」今野晴貴(特定非営利活動法人POSSE)

報告2：「日本とドイツのファストフードチェーン店における学生アルバイト比較——マクドナルドを事例に」田中洋子(筑波大学)

・テーマ別分科会

「障害者の雇用就労支援システムの現状」

日時：2023年10月7日(土) 12時50分～14時50分

会場：立命館大学衣笠キャンパス学而館GJ403教室

座長・コーディネーター：高野剛(立命館大学)

討論者：渡邊幸良(同朋大学)

報告1：「障害者就労継続支援A型事業所の経営実態の分析」金谷信子(広島市立大学)・富田哲治(県立広島大学)

報告2：「地方における障害者就労支援の現状」江本

純子(県立広島大学)・富田哲治(県立広島大学)・金谷信子(広島市立大学)

・例会

報告テーマ：障害者の福祉的就労の現状

日時：2023年9月16日(土) 14～17時

場所：立命館大学大阪いばらき(OIC)キャンパスA棟5階AN510教室

報告1：「障害者就労継続支援A型事業所の経営の現状と課題——全国データによる実証分析から」金谷信子(広島市立大学)・富田哲治(県立広島大学)

報告2：「X県における就労継続支援A型事業の現状」江本純子(県立広島大学)・富田哲治(県立広島大学)・金谷信子(広島市立大学)

コメンテーター：渡邊幸良(同朋大学)

・共催シンポジウム

田中洋子編著『エッセンシャルワーカー——社会に不可欠な仕事なのに、なぜ安く使われるのか』出版記念シンポジウム

日時：2024年3月16日(土) 13時30分～17時30分

場所：立教大学池袋キャンパス太刀川記念館3階カンファレンスルーム

共催：社会政策学会非定型労働部会、ジェンダー部会、旬報社の共同開催

報告1：「スーパー、外食チェーン、看護師」田中洋子(筑波大学)

報告2：「自治体相談窓口、教員」上林陽治(立教大学)

報告3：「トラックドライバー」首藤若葉(立教大学)

報告4：「建築一人親方」柴田徹平(岩手県立大学)

報告5：「アニメーター」松永伸太郎(長野大学)・永田大輔(明星大学)

評者1：今野晴貴(特定非営利活動法人POSSE)

評者2：禿あや美(跡見学園女子大学)

司会：金井郁(埼玉大学)

(高野剛)

◆保健医療福祉部会

保健医療福祉部会では、専門部会の強化という学会全体の方針を受けて、春に部会の会合をオンラインでも

ち、当面存続することを決め、メーリングリストを設置し、改めてメンバーシップを確認し、2024 年春を目途に運営内規を定めるよう検討を行った。あわせて、担当者を決めて、2024 年 11 月に部会研究会を開催する準備をすすめた。また、それとは別に部会メンバーの出版した単行本等について書評企画を行うこととして準備をすすめた。（松田亮三）

◆労働史部会

労働史部会は、Facebook でグループ活動を続けた（登録者 187 名）。研究会は、各回 15 ～ 30 名が参加した。年 1 回のペースで法政大学大原社会問題研究所との共催研究会（報告：鈴木誠会員）、第 2 回研究会（ゲスト報告：高島正憲氏）や自由応募研究会（報告：青木尚人会員・梅崎修会員）を行った。

さらに、2024 年 2 月には立命館大学（京都市）で研究会を開催し（報告：吉田誠会員）、会員間交流も深めた。さらに春季大会では、数年ぶりにテーマ部会「人物」からみた戦後日本労働史を開催した（梅崎修会員、南雲智映会員、仁田道夫会員、コメント：久本憲夫会員）。

新しい試みも行った。立命館大学での研究会の前に、

労働史ツーリズムの第 1 回（京都市「手織ミュージアム 織成館」）、『二村一夫著作集』の第 1 巻の読書会も開催した。（梅崎修）

◆労働組合部会

立教大学で行われた第 146 回大会において、次の内容で労働組合部会主催の分科会が開催された。40 名程度の聴衆参加によって盛会であった。

「米国ノン・ユニオンのもとでの日本的雇用慣行の移転」

座長：鈴木玲（法政大学）

コーディネーター：伊藤大一（大阪経済大学）

報告 1：「アメリカ労使関係における労働権の役割」
伊藤大一（大阪経済大学）

報告 2：「米国労働権州への TPS 実装基盤移転が直面する困難と要因」野村俊郎（鹿児島県立短期大学）

立命館大学で行われた第 147 回大会において、部会のミーティングを開催し、慶應義塾大学で開催される第 148 回大会において、労働組合部会主催の分科会を開催すること、およびその内容について議論された。

（伊藤大一）

6. 承認された新入会員

2024 年 7 月幹事会承認（13 名）

児島 真爾	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部	労使関係・労働経済、生活・家族
松井 拓海	東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻国際社会科学コース博士後期課程大学院生	社会保障・社会福祉、その他（社会政策史、日本の社会政策史）
渡邊 芽依	社会福祉法人愛知県女性福祉会女性自立支援施設成願荘	労使関係・労働経済、社会保障・社会福祉
小池 由佳	新潟県立大学人間生活学部子ども学科	社会保障・社会福祉
呉 ハヌン	大分大学大学院経済学研究科地域経営専攻大学院生	労使関係・労働経済、社会保障・社会福祉、生活・家族
宮本 雅也	日本学術振興会・東京大学総合文化研究科国際社会科学専攻、特別研究員（PD）	社会保障・社会福祉、ジェンダー・女性、その他（現代政治哲学 規範倫理学）
北野 廣平	東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程大学院生	その他（自由意志論）
澁谷 朋樹	新潟産業大学経済学部文化経済学科助教	社会保障・社会福祉
数実 浩佑	宝塚大学東京メディア芸術学部メディア芸術学科准教授	社会保障・社会福祉、その他（教育政策）
藤田 楓	芝浦工業大学大学院理工学研究科機能制御システム専攻大学院学生	生活・家族、その他（社会システム科学）
岡庭 英重	山形大学人文社会科学部人文社会科学科講師	労使関係・労働経済、社会保障・社会福祉
新美 達也	名古屋学院大学経済学部准教授	労使関係・労働経済
野畠 健志	芝浦工業大学大学院理工学研究科システム理工学専攻大学院学生	労使関係・労働経済